

令和7年度 鳥取県認知症介護実践者研修カリキュラムの概要

別紙 1

施設、在宅に関わらず認知症の原因になる疾患や容態に応じ、本人やその家族の生活の質の向上を図る対応や技術を修得できる。

	教科名	時間	目的	内容
事前	開講式 オリエンテーション ZOOM操作説明	60分	・研修の概要を知り、心構えと受講の方向性を明確にする。 ・研修の目的、目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解する。	・研修概要の提示(実践者の研修全体) ・研修の目的・ねらいの明確化 ・研修中の心構えと留意点の説明 ・資料確認
〔1日目〕	認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援	180分	認知症の人が望む生活を実現するため、認知症ケアの歴史的変遷や認知症ケアの理念、認知症の原因疾患、中核症状、行動・心理症状(BPSD)の発症要因、認知症ケアの倫理や原則、認知症の人の意思決定支援のあり方について理解を深める。	1. 尊厳の保持、共生と予防、本人・家族視点の重視といった認知症ケアの理念を理解し、その意義を説明できる。 2. 認知症の原因疾患とその症状の特徴、中核症状、心理的特徴及び行動・心理症状(BPSD)の発症要因について説明できる。 3. 行動・心理症状(BPSD)にとらわれず、望む生活を実現するケアを行う姿勢を身につける。 4. 認知症ケアの倫理原則について、活用の具体例を挙げることができる。 5. 意思決定支援のプロセスについて具体例を挙げることができる。
	生活支援のためのケアの演習1	300分	食事・入浴・排泄等の基本的な生活場面において、中核症状の影響を理解した上で、認知症の人の有する能力に応じたケアとしての生活環境づくりやコミュニケーションを理解する。	1. 代表的なケア場面において認知症の生活障害とその背景にある中核症状を評価できる。 2. 認知症の人の視点を重視した生活環境づくりが実践できる。 3. 認知症の人の有する能力に応じたコミュニケーションが実践できる。
〔2日目〕	QOL を高める活動と評価の観点	60分	認知症の人の心理的安定や QOL(生活・人生の質)向上を目指す活動に関する基本的知識、展開例、評価の観点と方法について理解を深める。	1. 認知症の人の心理的安定や QOL を向上するための活動の特徴を理解する。 2. 生活の中で行う、認知症の一人一人ひとりに合った活動の重要性を理解する。 3. 活動の展開・評価の方法と PDCA サイクルを理解する。
	家族介護者の理解と支援方法	90分	在宅で介護する家族支援を実践する上で、その家族の置かれている状況や心理、介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。	1. 在宅で介護する家族の置かれている状況や心理を理解する。 2. 家族の介護負担の要因を理解し必要な支援方法が展開できる。 3. 介護保険施設・事業所等の介護職員等としての家族支援の役割を理解する。
	権利擁護の視点に基づく支援	90分	権利擁護の観点から、認知症の人にとって適切なケアを理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める。	1. 認知症の人の権利擁護を目的とした制度を理解する。 2. 認知症の人にとって適切なケア、不適切なケアを理解する。 3. 身体拘束や高齢者虐待を防止しその役割を担い実践できる。
	地域資源の理解とケアへの活用	120分	関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等を通して、既存の地域資源の活用や認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための地域資源の開発の提案ができる。	1. 認知症の人にとっての地域資源の意味と介護職員等の役割を理解する。 2. インフォーマルな地域資源をケアに活用する提案や実際の活用ができる。 3. フォーマルな地域資源を理解し、ケアに活用できる。 4. 各種地域資源を活用し認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための取り組みができる。
現場実践		2週間	職場に戻り、学びを実践で活かし、自身の認知症ケアを振り返る機会をつくる。	
〔3日目〕	学習成果の実践展開と共有	60分	認知症介護実践者研修におけるこれまでの学習成果を踏まえ、自施設・事業所での自らの認知症ケアを実践することにより、研修で得た知識を実践において展開する際に生じる気づきや疑問・課題を明らかにする。それらの自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を検討し、他の受講者と共有することにより、知識の活用に関する幅広い視点を育てる。	1. 本科目までの学習成果を実践に活用することができる。 2. 自分と認知症の人のこれまでのかかわりのあり方を振り返ることができる。 3. 自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を明らかにすることができる。
	生活支援のためのケアの演習2	240分	認知症の行動・心理症状(BPSD)が生じている認知症の人に対して、行動の背景を理解した上で生活の質が高められるようチームで支援できる。	1. 認知症の人の行動の背景を洞察しケアを展開できる。 2. 認知症の行動・心理症状(BPSD)に対してチームで対応できる。 3. 認知症の行動・心理症状(BPSD)にとらわれず、生活の質を高めるケアを検討できる。
〔4日目〕	アセスメントとケアの実践の基本	300分	認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状のアセスメントを行い、具体的なニーズを導くことができるようアセスメントの基本的視点を理解する。アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践計画の作成・立案・評価ができる。	1. 支援過程における認知症の人のアセスメントの基本的視点を理解し、認知症の人が望む生活とそれを阻む身体要因、心理要因、神経心理学的要因等を明らかにすることができる。 2. 認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、その達成に向けた目標を設定できる。 3. アセスメントに基づき、認知症の人の望む生活の実現に向けたケアの実践計画を作成・立案・評価できる。 4. アセスメント及びケアの実践計画についてのケアカンファレンスを行うことができる。
〔5日目〕	職場実習の課題設定	240分	研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケア実践計画及びケアの実践を展開できる。	1. 研修で学んだ内容を生かして、自施設・事業所を利用する認知症の人のニーズをアセスメントできる。 2. 認知症の人の生活の質の向上を目的にしたケア実践計画を遂行できる。 3. ケア実践計画をもとに職場の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践を展開できる。
自施設実習 (アセスメントとケアの実践)		4週間	・研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントをもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケアの実践に関する計画やケアの実践を展開できる。	1. 研修で学んだ内容を生かして、現状のケアを評価することができる。 2. 所属部署等に良い影響を及ぼすケア実践計画が作成できる。 3. 認知症の人の望む生活像をアセスメントし、課題と目標を明確にできる。
〔6日目〕	職場実習評価 (実習のまとめ)	180分	アセスメントやケア実践計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。	1. 実施したケア実践計画を整理し、他の受講者に伝えることができる。 2. 他の受講者のケア実践計画が、認知症の人にとって有益なものであったか客観的に評価し助言することができる。 3. 結果を分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。